

厚生労働科学研究費補助金（長寿科学総合研究事業）
分担研究報告書

要介護高齢者の口腔・栄養管理のガイドラインの作成に関する研究

研究代表者	渡邊 裕	地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター 専門副部長
研究分担者	荒井秀典	国立研究開発法人国立長寿医療研究センター 副院長
研究分担者	安藤雄一	国立保健医療科学院 統括研究官
研究分担者	伊藤加代子	新潟大学医歯学総合病院口腔リハビリテーション科 助教
研究分担者	枝広あや子	地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター 研究員
研究分担者	小原由紀	国立大学法人東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 口腔健康教育学分野 講師
研究分担者	鈴木隆雄	国立研究開発法人国立長寿医療研究センター 理事長特任補佐
研究分担者	田中弥生	駒沢女子大学人間健康学部健康栄養学科 教授
研究分担者	戸原玄	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科老化制御学系口 腔老化制御学講座高齢者歯科学分野 准教授
研究分担者	平野浩彦	地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター 歯科口腔外科部長
研究分担者	渡部芳彦	東北福祉大学総合マネジメント学部 准教授
研究協力者	櫻井 薫	一般社団法人日本老年歯科医学会 理事長
研究協力者	前田佳予子	一般社団法人日本在宅栄養管理学会 理事長
研究協力者	長谷川祐子	法政大学スポーツ健康学部
研究協力者	本橋佳子	地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター
研究協力者	本川佳子	地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター
研究協力者	白部麻樹	地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター
研究協力者	三上友里江	地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター

研究要旨

要介護高齢者に対する歯科と栄養の連携による食支援で効果が得られることは、医療、介護の現場では実感されるところである。平成 27 年度の介護報酬改定で、介護保険施設における口腔と栄養管理の充実に係る改訂が行われ、平成 28 年度の診療報酬改定においても、歯科と連携した栄養サポートチームに対する加算など、口腔と栄養の連携が評価されることになった。しかし 本邦では、エビデンスに基づく管理方法や口腔と栄養の連携のあり方については十分提示されていないようである。我々は口腔と栄養の専門職だけでなく、その他の多職種も利用することを想定した要介護高齢者の口腔・栄養管理のガイドライン（以下 GL と

略す)の作成を試みた。

予備検索を行ったところ,医中誌では文献レビューは1件のみであり,シスマテックレビューの公開はないという現状が明らかになり,作成においては,日常の臨床および介護の場での疑問などを抽出し,一般的に適切と思われる対応方法を利用可能な文献を使って推奨とした。GLは要介護高齢者本人とその家族をユーザーとし,介護支援専門員やサービス提供者がこれを参考に,要介護高齢者本人やその家族に口腔や栄養のサービスの必要性を説明できることを目指した。

A.研究目的

平成 27 年度の介護報酬改定で,介護保険施設における口腔と栄養管理の充実に係る改訂が行われ,平成 28 年度の診療報酬改定においても,歯科と連携した栄養サポートチームに対する加算など,口腔と栄養の連携が評価されている。しかしこの分野での多職種連携が始まってからはまだ日が浅く,また介護に係る職種は様々であり,ケアにおいての共通言語,共通認識としてガイドラインが求められている。

本ガイドラインは介護保険の基本理念の 1.自己決定の尊重 2.生活の継続 3.自立支援を基盤としている。介護に関わる人々が,要介護者やその家族の希望,価値観,それぞれの身体的心理的社会的状況を理解し,対象者個人の尊厳や権利を守っていくことが大切である。また,本 GL は要介護高齢者に画一的なケア実践をするための指針ではなく,個別の対応に関する指針となるよう留意して編成した。

要介護高齢者の口腔管理,栄養管理の支援のための介護ケアの指針である。口腔と栄養の専門職に加え,その他介護に関わる多職種もこの指針を活用し,要介護者およびその家族の QOL を向上させることを目指している。

本 GL は介護に関わるスタッフに,要介護

高齢者を対象として科学的根拠に基づく口腔管理・栄養管理のケア指針を提示する。

この GL に従い,要介護高齢者とその家族の状況にあったケアが提供されることにより,低栄養状態の改善,誤嚥性肺炎などの感染症予防,熱発の減少, QOL の工場,認知機能の維持,生命予後の改善,要介護高齢者,家族,介助者のそれぞれの満足度の上昇などがもたらされることと考える。

B.研究方法

Minds の GL 作成の手順に従い,予備検索 CQ の設定,エビデンス収集,推奨作成を行った。

倫理面への配慮

1) 資金源からの独立性

本研究は平成 27 年度厚生労働科学研究費補助金 疾病・障害対策研究分野 長寿科学総合研究 課題番号 H27-長寿-一般-005 介護保険施設における利用者の口腔・栄養管理の充実に関する調査研究(研究代表者:渡邊裕)という公的な研究資金で執り行われており,企業からの資金提供はない。

2) 利益相反

本研究は上記Ⅷに記載した研究助成金により執り行なったものである。

研究者全員がこの研究について経済的な利

益相反はない。

C.研究結果

1) 予備文献検索

予備検索をおこなったところ複合プログラムに関する本邦での文献レビューは“介護予防の二次予防事業対象者への介入プログラムに関する文献レビュー”¹⁾の1件のみであり、ランダム化比較試験の報告はなかった。

そのためそれ以降の文献収集においては、非ランダム化比較試験、前向き臨床研究、分析疫学研究的文献に関する臨床的に有用と判断されたものは採用とした。

文献検索式 (介護/TH or 介護予防/AL) and (口/TH or 口腔/AL) and (栄養生理学的現象/TH or 栄養/AL) and ((PT=症例報告除く) AND (PT=原著論文))で論文化されているものは30編であった。根拠を明示しないコンセンサスに基づく方法は原則的に採用しないこととし、最終的に参考文献として採用したものは19件で、その後、採用した論文の孫引きなどハンドリサーチを追加し134件の文献を渉猟した。

2) CQ案の募集

予備検索で渉猟した文献から作業委員会で、スクリーニングおよびアセスメント方法について、口腔管理および栄養管理の方法について、口腔管理および栄養管理の効果について、の3点を臨床重要課題とし、予備文献検索データをGL作成委員全員で共有し、CQ案の募集を行った。CQ案は日本老年歯科医学会の在宅歯科診療等検討委員会の委員10名、多職種連携委員会の委員7名、日本在宅栄養管理学会からは日本の各地域からそれぞれ選抜された委員20名が、

介護保険施設、在宅の現場において医療、介護職からの疑問だけでなく、要介護高齢者本人やその家族からよく聞かれる疑問なども収集するように努めた。

課題1は17件、課題2は14件、課題3は8件その他重要臨床課題に分類されないもの6件が収集され、その中からCQ12件を選びまたCQに採用しなかったが、臨床的に知っておいたほうがよい知識に関しては別途Q&Aとして4件を作成した。

3) CQ 推奨作成

GL作成委員が分担し、CQ Q&Aの解説推奨文が作成された。(巻末に添付)

現在日本老年歯科医学会、日本在宅栄養管理学会を通じてこのGLに関する

パブリックコメントを求めるための準備を行っている。

D.考察

開発したGLを臨床に適用するには、ケア現場でこの有用性と内容を正しく使用することが大切と考えている。

更にGL普及のために、現場で簡単に使用できるような冊子、および要介護高齢者への説明に使用できるリーフレットの作成を行う予定である。

またこのGLの今後の展開として

- ① 関係学会のホームページでガイドランを公開する。
- ② GLの冊子体、報告書を研究協力施設などに配布する。
- ③ 関係学会などでGLを紹介・説明を行い、GLの冊子を配布する。
- ④ 導入後の実践を支援するような相談窓口の開設を行う。
- ⑤ GL使用で期待される結果が得られて

いるかどうかを,研究協力施設でモニタリングする
を検討している。
また定期的に GL の改訂・更新も予定している。

F.健康危険情報

なし

G.研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

本橋佳子,渡邊裕,枝広あや子,他,要介護高齢者の口腔・栄養管理ガイドライン作成の試み.第 75 回日本公衆衛生学会総会抄録集 2016 ; 520

H.知的財産権の出願・登録状況

なし